

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月20日(金)

### 《真の幸せを感じさせるのは「愛」》

今日の福音(マタイ 22・34 40)には、1人の律法学者が、「イエス様を試そうとして尋ねた」と書かれていますね。つまり、純粋な心で質問したわけではないのですね。尋ねた内容は「律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」というものです。イエス様は、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」とおっしゃいましたね。そしてそれと同じように重要な掟がもう一つあるとおっしゃいました。それは「隣人を自分のように愛しなさい。」です。

この言葉については、皆様、もう数えきれないくらい何度も聞かれたと思います。私もこの言葉については、数えきれないくらい説教台で話した記憶があります。しかし、今日急に、今まで考えなかったことが思い浮かびました。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神様を愛しなさい。」とありますが、『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして愛する』とは、どういうことでしょうか。どのような心の働きのことでしょうか。私達がよく口にする「神様を愛しています」というくらいのことなのでしょうか。では皆様は、『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして』神様を愛していらっしゃいますか。この言葉をよく考えてみると、一日中(24時間中)心を奪われているような状態です。そのような心で神様を愛した、恋した記憶がありますか。私も考えてみたら、そこまでの思いになっていない自分に気づきました。

そしてもう一つの掟、「隣人を自分のように愛しなさい。」ですが、『自分のように愛する』とはどのようなことでしょうか。そのような愛を経験したことがありますか。きっと皆様は、経験したから結婚まで辿り着いたのでしょうね。仕方なく結婚してしまった人は少ないですよ。少なくとも「私はこの人に人生をかけてもよい」くらいの思いは持って結婚したはずですよ。では、その思いはどのくらい長く続きましたか。毎日、その人のことが自分のことのようにいつも頭の中であって、その人のために何をしたらよいかと焦るような気持ちで24時間過ごしたのは、何十年前のことでしょうか。(笑)

実は、この律法は、そのような特別な人だけを対象に話されたものではありません。これは、イエス様が生まれるずっと前から、イスラエル人全体に話されていた掟なのです。「あなたがたはこの掟を守らなければならない。」と言われていたものです。それなのにイスラエルの歴史を見ると、この掟が実践されたところは、顕微鏡で捜しても見つけれないくらいわずかです。彼らは、子どもころから「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神様を愛さなければならない。」「隣人を自分のように愛さなければならない。」と聞かされて育ちます。今でも毎日、子ども達にこの話を聞かせています。しかし今のイスラエルの状態がどうなっているか知っていますよね。人を殺そうとしてばかりです。

隣人というのは、一緒に住む隣の人です。隣の国です。それなのに、土地を争って、機会があれば隣の国へミサイルを撃つようなことばかりしています。

イスラエルには今でも、“全ての民族がエルサレムを中心に礼拝を捧げなければならない”という考えがあります。それなのに実際の生活がこのようになるのは、どうしてなのでしょう。イエス様はこの掟を誰よりもよくわかっていらっしやいました。だから、同じ民族であるイスラエルのリーダーたちのこのような振る舞いや心持ちを見て、本当につらい気持ちになっていたのでしょう。そこで、ラザロの話のようなたとえ話をしたのです。ラザロは、金持ちの門の前で物乞いをしていました。そして死んだ後、天国のアブラハムの宴席に行きます。一方、金持ちも死にますが、金持ちは陰府<sup>よみ</sup>で炎に焼かれて苦しみます。そしてアブラハムに「兄弟達がこのようなところに来ないように、ラザロを遣わして言い聞かせてほしい」と頼みます。しかしアブラハムは、「モーゼと預言者達がいる。その話を聞かないのならば、死んだ者が帰って来てもその言葉を信じるはずはない。」とおっしゃいます。

皆様、私達は、今日の福音の言葉を考えて、金持ちとは違う道を歩きましょう。もちろん限界はあります。いくら頑張っても嫌いになってしまう人はいます。しかし、少なくともこのような掟を心に置いて人と関わろうとすれば、今より赦そうとする心を感じるのではないのでしょうか。そして、今までの固い心ではなく、もっと愛そうとする態度ができるのではないのでしょうか。

イタリアにナポリというところがありますね。そこに伝わっていることわざがあります。『人間は、自分がなぜ生きるのか、何のために生きるのかが分からなくても生きられる。しかし愛する対象がいなかったら、その人間は死んでしまう。』という言葉です。

意味深いことわざだと思います。私達は、何のために生きるのかが分からなくても、何とか生きられます。しかし、恋する、愛する心をつかち合う対象がいなかったら、逆に言えば自分の心を受け入れてくれる人がいなかったら、死んでしまうのです。これは、今日の福音にもつながります。私達にこの後どのくらい人生が残っているかは分かりません。しかし、若い人にとっても、高齢の人にとっても、これからの人生で真の幸せを感じさせるのは、『愛』であることを意識しましょう。そして、どうすれば愛の体験ができるのか、考えながら歩みましょう。

ありがとうございました。